

守山まるごと活性化 議事要旨

作成者：村上

会議名： 第4回 C 農業を元気にするプロジェクト推進会議

日時：平成 28年 8月 9日（火）午後7時30分～10時00分

場所：中洲会館 2階 大ホール

出席者：山本、杉田、林浩、津田、本城、樋上、岩井、西村、佐藤

出席者(行政)：農政課井上係長、地域振興・交通政策課坪内課長、館長、会館主事

使用資料：次第、前回議事要旨

議題

- ・懇談会の感想
- ・懇談会を受けて、今後の取り組みについて
- ・その他
- ・次回の会議について

会議要旨

内容

●懇談会の感想

- ・「おうみんち」では小さいことから大きくしていったことが分かったが、誰が中心となって取組むかによって変わってくる。川端氏だからこそできたと感じた。
- ・アクティブシニアの活用に注目した。思いつきではあるが、土地を借り、定年を迎えた非農家の方に呼びかければ集まりそう。学区内の交流も図れる。市のHPなどで広報するのも良さそうであるが、募集するまでの段取りが必要。

●懇談会を受けて、今後の取り組みについて

(意見交換内容)

- ・学区内には放置された畑が多いので、それを借りて何かできないか。
→まるごとで行なうのは難しくないか。→それを言うともできない。
- ・JAと協力して特産品の育成、各地の遊休地の活用(例 懇談会で川端氏が挙げていたが、漢方薬用の薬草の栽培)
- ・開発自治会の営農組合は、プランターでメロンを栽培。土壤の細菌感染を防ぐため、プランター栽培が最近増加傾向にある。
- ・新しい取り組みの話は良いが、やったことのないことに挑戦することは大変である。現状を踏まえ、今後の中洲の農業はどうなっていくか考えた上でなければ。
- ・中洲にある遊休農地を利用し、体験農業や後継者育成はどうか。地元の農家が講師となり、講師の得意分野の作物の育て方を教えていく。元サラリーマンを対象に。技術の継承にもなる。まずは中洲の人を対象に。
→まるごとで行なうには荷が重い。特に、中洲の人は土地所有者が多いからわざわざ借りてまでしない。
→できる人だけでよい。農業後継者クラブにも協力をしてもらって。
- ・ある人が市へ土地が余っていることを相談したが、「市民農園にしてはどうか」とアドバイスされたため募集をかけたが、応募がなかった。
- ・土地を余らせていても、貸し主が見知らぬ人に貸すのを嫌がることもある。また、貸すにしても、駐車場や水道、機械など様々な問題があり、場所によっても変わってくる。
- ・新庄町で味噌やたくあんづくりをされている。大豆作りからはじめるのも面白そう。
- ・目的を遊休農地の解消か中洲特産品の生産かどちらかに。両方を行なうのは現状難しい。

(裏面へ続く)

決定事項

味噌づくり体験を実施する。
まずは味噌づくりを行なっている団体から話を聞き、次回会議で詳細を検討する。

次回以降について

味噌づくり体験の実施に向けて

・次回は9月6日(火)19:30～ 中洲会館

会議要旨

内容

・水利や機械の関係から、一般の人に土地を貸すのはハードルが高いので、収穫体験や特産品作り、味噌づくり体験の方が良いのでは。

◆様々な意見が出た中で、方向性としては以下3つ。

- ①遊休農地を借りて、市民農園化
- ②遊休農地を借りて、特産品の生産
- ③加工食品を作る体験(味噌づくり 他)

⇒このうち、今回は味噌づくり体験を行なうことを決定。

今回は味噌づくりのみとなるが、来年度以降も引き続いて行なう場合は、大豆の栽培や脱穀といった大豆栽培の一部を参加者に体験してもらうのも良い。

まずは味噌づくりを行なっている団体から話を聞き、次回会議で詳細を検討する。

※味噌づくりを行なっている団体・・・新庄町 未来の会(みきのかい)、JA中主、野洲 糺屋吉右衛門
未来の会はメンバーの林氏、津田氏が話を聞く。

